

製品名: Fnk ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11058**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	70kDa

抗原情報

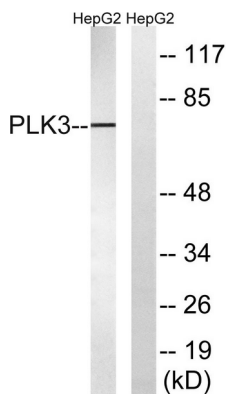
遺伝子名	PLK3 PLK3; CNK; FNK; PRK; Serine/threonine-protein kinase PLK3; Cytokine-inducible
別名	serine/threonine-protein kinase; FGF-inducible kinase; Polo-like kinase 3; PLK-3; Proliferation-related kinase
遺伝子 ID	1263.0
SwissProt ID	Q9H4B4
免疫原	抗血清はヒト PLK3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 231-280

背景

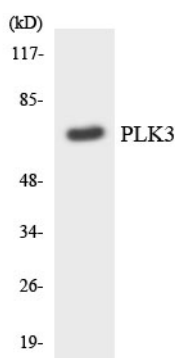
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、高度に保存されたセリン / スレオニンキナーゼであるポロ様キナーゼファミリーのメンバーです。このファミリーのメンバーは、アミノ末端キナーゼドメインと、基質結合モチーフおよび細胞局在シグナルとして機能するカルボキシ末端の二分節ポロボックスドメインを特徴とします。ポロ様キナーゼは、細胞周期進行の重要な調節因子です。この遺伝子は、ストレス応答および二本鎖切断修復にも関与していることが示唆されています。ヒト細胞株において、このタンパク質は微小管依存的に中心体と会合することが報告されており、有糸分裂期には有糸分裂装置に局在します。キナーゼ欠損変異体の発現は、微小管動態の変化および有糸分裂停止に起因する異常な細胞形態を引き起こし、アポトーシスを引き起こします。 [RefSeq 提供、2015年9月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能: 細胞周期における M 期機能の調節に参与するセリン/スレオニンプロテインキナーゼ。細胞接着を制御するシグナル伝達ネットワークの一部である可能性もある。in vitro では、CDC25C とカゼインをリン酸化することができる。誘導: サイトカインと細胞接着が FNK 誘導を引き起こす。PTM: 細胞が有糸分裂に入るとリン酸化され、細胞が有糸分裂を終えると脱リン酸化される。類似性: プロテインキナーゼスーパーファミリーに属する。Ser/Thr プロテインキナーゼファミリー。CDC5/Polo サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。類似性: 2つの POLO ボックスドメインを含む。サブユニット: カルシウム/インテグリン結合タンパク質 (CIB) に結合します。この相互作用はおそらく POLO ボックスドメインを介して起こります。組織特異性: 転写産物は胎盤、肺、次いで骨格筋、心臓、脾臓、卵巣、腎臓で高く検出され、肝臓と脳ではわずかに検出されます。半減期は短い可能性があります。造血系由来の細胞では、終末分化マクロファージでのみ強くかつ特異的に検出されます。原発性肺腫瘍では、転写産物の発現が低下しているようです。

研究分野

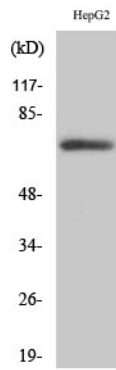
画像データ



PLK3 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



PLK3 抗体を使用した RAW264.7 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



Fnk ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析